

①事業名	【4】「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業	
②主管課及び関係課（課長名）	（主管課）生涯学習政策局社会教育課（課長：三浦 春政）	
③施策目標及び達成目標	施策目標 1-2 「地域の教育力の向上」 達成目標 1-2-4 「ボランティア活動をはじめとした、地域のきずなを深める取組を推進する。」	
④事業の概要	住民がボランティア活動や家族参加の体験活動など通じて、地域の様々な課題に取り組みながら解決するなど、地域の人々が「ふれあい、支え合う」地域のきずなづくりを推進し、地域の教育力の再生を図る。	
⑤予算額及び事業開始年度	平成19年度概算要求額：1,502百万円（新規） 事業開始年度：平成19年度	
⑥広報計画	【ターゲット】 本事業は、住民自身による地域課題等の解決に資する活動に取り組む都道府県や市町村等を主なターゲットに広報活動を進めていく。 【メッセージ】 本事業は、ボランティア活動をはじめ、地域住民が主体的に地域課題等の解決に取り組む事業などを通して、地域住民のきずなを深め、学びあい、支えあう地域づくりの推進を目指す。 【媒体】 文部科学省のホームページや各種広報誌などを用いるとともに、地域の広報媒体の活用を予定。 【タイミング】 文部科学省において事業の実施に関する基本的な方針（指針）を決定し、それを踏まえて広報を行う。	
⑦事業開始時において得ようとした効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑧得られた効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑨得ようとする効果及び上位目標との関係	【得ようとする効果】 本事業を契機として、地域の課題等に関心を持ち、地域独自の活動として定着した地域数の増加を目指し、その成果を全国的に普及する。 また、フォーラムなどの広報啓発活動を行うことで、地域づくりへの住民参加の気運を醸成し、社会参加活動を促進する。 【上位基本目標・達成目標との関係】 地域住民が身近な地域に関心を持ち、主体的に地域の課題解決等に関わろうとする気運が全国的に広がりを見せることで、地域住民が共に学び、支えあう地域づくりが推進され、ひいては、住民の連帯感、地域のきずなによる地域の教育力の向上に結びつくものと考えられる。	⑩達成年度 平成21年度
⑪必要性	中央教育審議会「今後の生涯学習の振興方策について（審議経過の報告）」（平成16年3月）において、生涯学習の振興のために重点的に取り組むべき分野として、「地域の教育力の向上」、「地域課題の解決」が挙げられており、各地域において、切実な地域課題に適切に対応していくことにより、個性豊かな活力ある地域社会を築いていく必要があると提言されている。 また、文部科学省が行った「地域の教育力に関する実態調査」（平成18年2月）によると、「地域教育力が低下している」と認識している人が過半数を占めており、その要因として、「個人主義が浸透し、他人の関与を歓迎しないため」と考える人が最も多い。さらに、「近隣の人々との親交を深める機会の不足」や「地域の安全性に対する不安から、他人との交流に対する抵抗感が増している」ことが、地域教育力の低下の要因として挙げられている。	
⑫効率性	【事業に投入されるインプット（資源量）】 平成19年度の本事業における予算規模は、1,502百万円である。 【事業から得られるアウトプット（活動量）】 国（文部科学省）の委託事業により行うことで、地域や家族のきずなを深める様々な活動や、地域課題等を解決する取組の機会の提供を全国的に行うことが可能となる。	

	<p>また、各地域の取組結果や先進事例、課題等を短期間に効率的（効果的）に把握することが可能である。</p> <p>さらに、取組事例集の作成・普及することにより、取組が進んでいない地域でも参考とすることができる。</p>
⑬ 想定できる代替手段との比較考量	<p>地域独自の事業として行うよりも、国（文部科学省）からの委託事業として行うことにより、短期間かつ効率的に事業の成果や課題を把握し、その結果を波及できる点が効果的であると考えます。</p>
⑭ 有効性	<p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業実施をきっかけとして地域独自の取組に移行した地域数 <p>【参考指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の公立小学校区数 22,856校（平成17年度 学校基本調査）
	<p>効果の把握の仕方</p> <p>本事業の効果は、各地域の実施主体が、事業実施前に適切な達成目標を設定し、事業終了後にその検証を行う。文部科学省では、その検証結果をもとに効果の分析を行う。</p> <p>また、事業終了後に住民への意識調査や地域に定着した取組等に関するアンケート調査を行うことにより効果を把握する。</p>
	<p>得ようとする効果の達成見込み及びその判断根拠</p> <p>地域住民が主体的に地域課題等の解決に取り組んだり、地域全体が参加する事業を実施することにより、活動の中で住民同士の交流が深まり、さらに問題意識を共有し、一丸となってその課題解決に取り組むようになるなど、地域のきずなを深め、住民が共に学びあい、支えあう地域づくりの全国展開が図られたことを以て、想定された効果が得られるものと判断する。</p>
⑮ 公平性、優先性	[政策の特性に応じて、必要により評価]
⑯ 評価に用いたデータ・情報・外部評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・中央教育審議会「今後の生涯学習の振興方策について（審議経過の報告）」（平成16年3月） ・文部科学省「地域の教育力に関する実態調査」（平成18年2月）
⑰ 備考	

「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業

- 住民のきずなによる安全で安心な地域づくり
- 現代的課題や地域課題の解決能力の向上

(新規)

19年度要求額 1,502百万円

背景

○ 地域教育力の低下

社会の急激な変化に伴い、住民の地域社会への帰属意識の希薄化、住民同士の交流不足等により、地域教育力が低下し、青少年の問題行動の深刻化や青少年を巻き込んだ犯罪が多発。

- ・ 地域教育力が低下していると認識している人の割合 : 55.6%
- ・ 低下している要因……個人主義が浸透しているため : 56.1%

(資料)「地域の教育力に関する実態調査」(平成18年2月 文部科学省)

○ 解決すべき現代的課題や地域課題が増加、複雑化

環境問題、子どもの体験不足、安全・安心なまちづくり、外国人居住者との共生など

○ 教育基本法の改正案

公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。(第2条第3号)

地域のきずなを深め、地域の再生を

事業の実施

事業の公募

(事業例) 小規模エリア:2,300ヶ所×@501千円、大規模エリア:50ヶ所×@3,980千円

家族のきずなを深める 体験活動

- 家族で農村まるごと体験
 - ・ サツマイモ栽培の事前学習
 - ・ 畑の耕作、苗植え、草取り、肥料やり、収穫
 - ・ 畑や小川で昆虫採集
 - ・ いろんな野菜を観察しよう
 - ・ 農家から縄づくりを学ぶ
- まちの歴史と伝統を体験
 - ・ まちの歴史を学習
 - ・ 史跡を訪ねてみよう
 - ・ 史跡マップづくり
 - ・ 伝統工芸品に挑戦
- 親子でスポーツ体験
- 親子登山と自然観察



地域のきずなを深める活動

ボランティア活動

- 地域を支えるボランティア
 - ・ 住民のボランティア登録
 - ・ 町内会長が援助希望者とボランティアをマッチング
 - ・ 独居世帯を高校生が雪かき
 - ・ 毎日の声かけ・読み聞かせ

高齢者から学ぶ町

- ・ 手作りおもちゃと昔遊び
- ・ お年寄りから地域の昔を知る
- ・ 地域観光に役立つマップづくり
- ・ 生活習慣病予防講座
- ・ 地域みんなで健康体操

安全・安心なまちづくり

- 防災に関する学習活動
 - ・ 防災講座(家庭での安全対策、地域の助け合い)
 - ・ 地域避難訓練と救急講習会
 - ・ 公民館での避難生活体験



環境美化学習活動

- きれいな川のある地区づくり
 - ・ 環境学習(住宅から出る汚水の環境への影響)
 - ・ 川の現地調査(水質測定、生物調査)
 - ・ 環境学習(廃油から石鹸作り)
 - ・ 川周辺の清掃活動
 - ・ 環境学習(水質改善の方策を考える)



公民館で活動

- 自分たちで解決! 地域の課題
 - ・ 住民アンケートで地域課題の提出
 - ・ 解決すべき課題を決定
 - ・ 住民から解決策を募集
 - ・ 他地域の事例を見学
 - ・ 実行計画作成→実行

事業の普及・啓発

全国・地方フォーラムの開催(地域づくりへの住民参加の気運醸成)
事例収集・分析、事例集の作成(地域の取組を全国へ発信) など



地域教育力を再生

